

学校の部 最優秀賞（知事賞）

みなべ町立高城小学校



花づくりや花壇の管理は誰がどのように行っていますか

小高い丘に、本校が開校されたのは昭和55年。当時は殺風景な校地周辺だったので教職員や児童・保護者が協力し合って、桜やツツジ、紅葉などの苗木を植樹したり、卒業生も卒業記念としてツツジを植樹したのが、本校の花育の始まりでした。今では放送・栽培委員会が中心となり「心の中に花一輪」の花言葉で四季折々の花を育てています。「美しい花の種」をたくさん蒔けば、そこから、「おもいやり」や「優しさ」をいっぱい浴びた芽が出て幸せの花がたくさん咲きます。私達の学校を「しあわせの花」でうめつくしたいです。種蒔き、定植、土作りなど年間を通して様々な仕事があり大変ですが、児童1人ひとりが母校に誇りを持ち花で自慢できる学校にしたいです。

ご近所や関係者の反応はどうか、またどのような交流が広がっていますか

毎年、春の花壇を楽しみにしている地域の方から「春に、ピンクや白の花を家でも育てたい」と声を掛けて下さったので、種蒔きや育て方のコツを教えました。すると、春には庭先で太陽の光を浴びて光輝くりビングストーンデーの写真を笑顔で見せてくれました。このように毎年楽しみにして花見にいらした地域の方が今度は自分で育ててみたいと思うまでになり皆様に与える花の力は素晴らしいものだと感じました。また、7月の参観日には委員会で育てたジニアとケイトウの苗を保護者に渡しました。「学校のジニアのように、こんもりと大きく育ててみたい」という声もあったので、摘心して育てる方法を紹介しました。ジニアの花言葉は「絆」です。花言葉のように親子の絆がより深くなること願って・・・本校は学校を訪れるお客様だけではなく、地域の皆様にも喜んでもらえるように道沿いの花壇にも、四季折々の花を育てています。「花で心のおもでなし。皆様を優しく包み込む花作り」を日々心がけています。

